事例No.	1306
公表年度	R1
団体の属性	町村
団体名	徳島県東みよし町

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・移住定住 ・ICT

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

もっと知って！感じて！「東みよし町」

出典

関係人口創出・拡大事業（裾野拡大型・裾野拡大（外国人）型）成果報告会

1.地域概要・地域課題・事業に取り組む背景

●地域の概要

地域名：東みよし町（徳島県）
人　口：１４,３２８人

- 産業別の就業者比率をみると、第三次産業61.7%、第二次産業25.4%、第一次産業9.0%となっている。
- 産業別では、近年大型量販店の進出によりサービス業、建設業、卸・小売業に従事する割合が多く、基幹的産業である農林業は年々減少してきている。



●解決したい地域課題

- 山間地域での高齢化・人口減少は加速し、地域の祭りや自治活動では、若者の流出により高齢者が担い手とならざるを得ない状況で継続が危ぶまれている。
- 同じ町内でも山間地域で行っている事を市街地の若者は知らない。

●本事業に取り組むに至った背景

- 町内山間地域である法市集落は17世帯26人という高齢化が進みコミュニティ機能が失われつつある中、農業六次産業化をはじめとする、農業を通じた限界集落の再生に住民自らが取り組んでいる。
- このような取り組みがある中、法市集落で取り組んでいる事は町内市街地住民にはあまり伝わっていない。
- 平成30年3月にこの地域が「にし阿波傾斜地農耕システム」として世界農業遺産に認定されたことから、町内市街地住民も含めて「法市でおこっていること」を情報発信し地域の活性化に繋げる。

2. 事業概要

●事業概要

＜ターゲット＞
- 東みよし町への関心を有する外部者
- 地方への地域支援を志向するものの情報不足で関わりの弱い外部者
- 町内市街地に居住する町民

＜概要＞
- 「東みよし町の限界集落“法市”でおこっていること」を情報発信し、段階的に集落の担い手としての関係人口創出へとつなげる。

＜実施事項＞
- 地域ヒアリング調査（会議3回・大学ゼミ生受入れ1回）
- 地域体験ツアー（1回）
- ライブコマース収録・配信（収録1回・配信は継続中）
- 移住定住ポータルサイト拡充
- 関係人口パンフレット作成
- 東みよしファンクラブの創設
- 受入れに関してのルールづくり

●地域の理想の姿

- 地域住民にとっては、「担い手の確保」＝「移住」が何より求められる事だが、外部者の移住に関する意識とはズレが生じる。このため「知る」から「接点づくり」「時々通う」に繋げる。地域の活動が関係人口の手により継続可能になることで住民が希望を持ち、更なる事業の発展へと繋がり、地域が活気を取り戻す。

●理想を実現するための本年度事業の位置づけ

- 本事業では「東みよし町の限界集落“法市”で起こっていること」に特化し、東みよし町を法市集落を通じて知ってもらう。

●本年度の目標

- 地域内外の目線による東みよし町の魅力の発掘、情報発信による新たな関係人口の創出
  ○地域体験ツアー参加者数：5人
  ○ライブコマース視聴数：2000以上

- 東みよし町に興味を持ってくれた人との継続的な関係性の構築
  ○20人以上のソーシャルメディアのフォロワー数

3.事業実施体制・スケジュール

●事業実施体制（受け入れ体制を含む）

東みよし町　企画課
東みよし町　産業課（地域おこし協力隊員）
三好素人農事研究会
法市の干し芋
ハタ・法市集落活性化組織
株式会社　ジェニオ
オンタナ旅行

連携

株式会社　第一プログレス（関係案内人）
カメラガールズ
ライブポータル





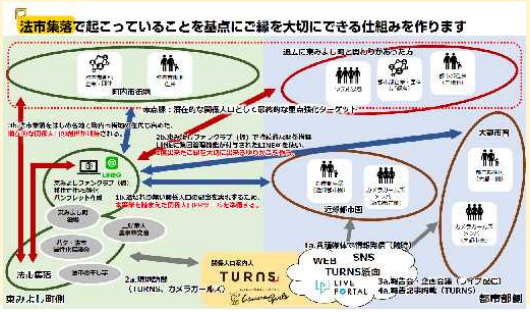
●スケジュール

実施事項	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1 ヒアリング等調査			★			★	★			★			★	法市集落の何を伝えていけばよいのか、どんなことを地域は求めているのかを調査																			
2 地域体験ツアーの実施													開催準備及びSNS・町HP等での募集			★																
3 ライブコマース配信																					★	ライブコマース配信										
4 成果分析（参加者アンケート・報告書作成等）																	カメラガールズによるSNSでのツアー情報発信					★	TURNSウェブ掲載成果分析									
5 移住定住PSコンテンツ強化										移住支援制度、町内生活環境等の情報発信																						
6 関係人口パンフレット作成										都市部でのイベントやフェア、移住関連施設等に配布し関係人口拡大を図る																						
7 ファンクラブの創設							東みよし町に関係を持ってくれた人に登録頂き、今後の町内情報を発信し、関係性が継続できるよう創設する																										
8 受入れに際してのルールづくり																						地域課題に関してのツアーをつくる										

4.事業の「ターゲット」

●事業のターゲット

- 東みよし町への関心を有する外部者
- 地方への地域支援を志向するものの情報不足で関わりの弱い外部者
- 町内市街地に居住する町民



●参加者募集のターゲットの設定経緯

- 本事業では、まず、日本最大のコミュニティであるカメラガールズメンバーに来町してもらい、彼女達自身も関係人口になってもらいながらＳＮＳで町の情報発信をしてもらう。また、その先にある関係人口に繋がる出逢いにも期待しているため、来町したカメラガールズ、法市の関係者、町職員が参加して、東みよし町の体験談をＳＮＳで情報発信し続けている。また、一度できたご縁を大切にするため「東みよしファンクラブ」により持続的な関係構築を目指す。

●ターゲットへの広報・アプローチ

【実施事項】

- 地域体験ツアーは、ターゲットをカメラガールズに絞って行ったため、カメラガールズコミュニティへの情報発信をＳＮＳで行う。
- 地域体験ツアーの実施時に、都市部住民（カメラガールズ）と一緒に、町内居住者も募集しその応募広報は町ＨＰ、ＳＮＳで行った。
- 東みよしファンクラブへの広報は、移住フェア・移住セミナーの参加時にチラシ配布や、移住定住ポータルサイト、ＳＮＳで行った。

【成果・効果】

- カメラガールズコミュニティへの募集先は、関係人口に繋げやすい関西圏を設定した事により19人の応募があり5名を選定した。
- 地域体験ツアー時実施のカメラ講座には、町内市街地住民を予定していたが、町外・県外からの参加希望があり、参加頂いた。







5.関係人口の活動内容

●参加者（関係人口）が取り組んだ活動の内容

★関西学院大学ゼミ生により地域ヒアリング
日程：2019年8月4日～6日
参加者：13人
東みよし町を2泊3日で訪れ、法市集落の何を伝えていけばよいのか、どのような事を地域は求めているのかを調査し、報告会を開催した。




★地域体験ツアー
日程：2019年10月5日～6日
参加者：5人（+地域9名）
カメラガールズ（カメラ好き女子の日本最大級のSNSコミュニティ）に東みよし町を体験してもらい、情報発信してもらう。また地域住民も一緒にカメラ講座を受講し町内撮影スポットを訪れた。





★カメラガールズと一緒にライブ配信

日程：2019年11月30日
参加者：8人
地域体験ツアーに参加したカメラガールズが、ヨソモノ目線で町の良さを発見しPRし、多くの人に東みよし町を知ってもらうためライブ配信を行う。





6.活動の成果

●本年度の目標達成状況

- 地域内外の目線による東みよし町の魅力の発掘・情報発信による新たな関係人口の創出
  ★5人以上の都市部住民の東みよし町での地域体験ツアーの参加
  ☆5人の都市部住民参加の体験ツアーと同時に地域内外希望者も参加してのカメラ講座を実施し、合計14名の参加
  ★ライブコマースの動画視聴数2000以上
  ☆投稿リーチ数2,768、視聴数1,292
- 東みよし町に興味を持ってくれた人との継続的な関係性の構築
  ★20人以上のソーシャルメディアのフォロワー獲得
  ☆地域ツアー参加者（都市部住民・地域内外住民）や移住フェア・移住セミナーでお会いした方に登録頂き、東みよし町の暮らし、人々、イベントなどをＳＮＳで情報発信している。令和2年2月27日時点でインスタグラム350人。ライン@99人

●関係人口の地域との関わり方

- 関係人口となってもらうためには、継続して地域との関わりが必要になる。地域では、農業の収穫時や農村舞台などに人手が必要になるため、来年以降も続けて訪れたくなる魅力(ツアー)をつくり、継続して実施する。



●その他の成果



- 今回の事業を一緒に行った団体に加え、取り組みに興味を持った個人も加わり、関係人口ツアーをつくろう会が発足した。次年度以降も様々な要素を取り入れた町の魅力発信に一役買ってくれそうだ。

7.課題への対応

●事業で直面した課題とその対応策･解決方法

＜中間支援団体の設立＞

● 当初は「中間支援団体」の設立を目指しており、今事業で関わりの深かった、法市集落の住民や法市の干し芋、三好素人農事研究會の各団体が連携し、地域おこし協力隊員を中心に活動を行う予定であった。しかし、中間支援団体の本事業での設立は難しくなり、「継続できる体制づくり」に必要な、地域に人を呼び込む「ツアー」を作成し、今後に繋げ自走的に維持できる仕組みを作りたい。



●今後の課題と対応方針

● 今年度、この事業を受託でき、庁内・町内で「関係人口」というワードの周知が進んだ。今後も少しずつ仲間を増やしながら継続していくことにこそ意義があると思う。まずは「中間支援団体」を担える人材・団体の発掘・育成を根気強く実施する。



8.将来への展望

●来年度以降の関係人口とのかかわり方

- 本年度創出した関係人口は、来年度以降も継続して関わりを持ってもらいたい。学生からの町への提案を、学生と一緒に実現する事が可能か検討する。また、今回訪れた関係人口が1人でも再度来町してもらえるよう、継続して町の情報発信を行う。





●「関係人口」施策の展望

- 関係人口創出拡大事業は、継続にこそ意義があると思うが、単年度で結果が表しづらいので、予算確保が難しいと感じる。しかし、今年度事業が受託でき、得た関係人口を次年度以降も持続するため、仲間を増やしながらこつこつと継続していきたい。

- 今年度に引き続き、中間支援団体を担える人材・団体の発掘・育成を根気強く実施する。